福岡・高畑（たかばたけ）遺跡

1　所在地　福岡市博多区板付六丁目

2　調査期間　第一七次調査　一九九八年（平10）九月～一九九九年三月

3　発掘機関　福岡市教育委員会

4　調査担当者　大庭康時

5　遺跡の種類　大溝・水田跡

6　遺跡の年代　八世紀～一三世紀

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

高畑遺跡は、福岡平野を北流する御笠川西岸の洪積台地、ならびにその裾部分に位置している。既往の発掘調査でも、木簡・墨書土器などが出土している（高畑廃寺。本誌第五号）。第一七次調査は、道路新設に伴うもので、二〇六四㎡を調査した。その結果、古代の大溝、中世の水田遺構を検出した。

（福　岡）

古代の大溝は、調査区西側の中位段丘に沿って流れていたもので、幅八・五～一一・五mを測る。周辺の既往の調査成果からみて、人為的に掘削された可能性がある。掘削時期は八世紀前半で、一〇世紀頃に埋没したと考えられる。

(1)は、大溝埋土の中位、九世紀代の堆積層から出土した。九世紀代の流路に属する。大溝から出土した遺物には、一〇世紀代の上層から「子」と墨書した土師器、木製人形が、九世紀代の中層から「什」「田」「下」の墨書土師器、墨書須恵器（判読不能）、人面墨書土器、絵馬が、八世紀前半以降の下層からは「常陸」「原」などの墨書須恵器、人面墨書土器などがある。

(2)は、中世の自然流路のうち、一一世紀以降一四世紀までの間に堆積した砂層中から出土した。

8　木簡の釈文・内容

古代の大溝

(1)　・□□□所損稲□□来八日□□□〔也右カ〕

□利進塡□□事□□□『□』（重ネ書キ）□□

・□□□　□□□

□令□勘□乙成□□□〔米カ〕　□□□□□□□

事状以解　天長五□□□□□□□

(359)×(57)×3　081

(2)
・「□□
□□□
□□なと
□□」
・「□□
□」

78×(46)×0.3　081

(1)は緩く湾曲した縁辺に沿って、二孔一対の穿孔があるので、折敷の底板を転用したものと思われる。遺存部位からみて、冒頭と末尾のそれぞれ二行分が残ったものである。墨書は、比較的鮮明だが、判読できない文字が多い。天長五年（八二八）の紀年をもつ稲の損失の補塡に関わる大振りの文書木簡であるが、断簡のためまとまった意味を読みとるには至っていない。

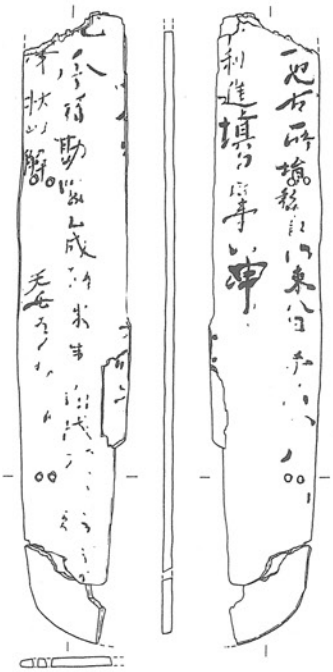
(2)は檜の柾目材である。上・下端は遺存するが左右は欠失し、本来の形状はわからない。墨痕は鮮明だが、ほとんど釈読できない。

なお、釈読にあたっては、九州大学の坂上康俊氏、山口大学の橋本義則氏のご教示を得た。

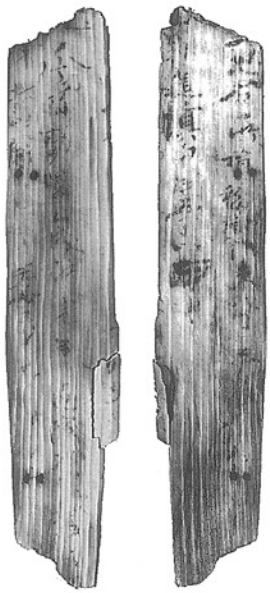
9　関係文献

福岡市教育委員会『高畑遺跡一七次』（福岡市埋蔵文化財調査報告書六七六、二〇〇一年）

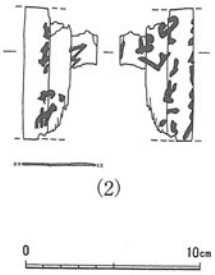
（大庭康時）



(1)



(1) 部分
（赤外線デジタル写真）



(2)